
『不老』か『不死』

迷鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『不老』か『不死』

【コード】

N3865P

【作者名】

迷鳥

【あらすじ】

一度は思ったことがある、そんな迷いを書いています。

キーワードは「幸せに迷いましょう」

(前書き)

読みにくい話となっています、ご了承ください。

あれは、私たちが中学生だった頃のことだ。

部活が休みだったこともあって、放課後の教室でのんびりと話していたらふと、こう言ったのだ。

「不老不死、てあるよね？」

……最初は何を言い出すんだ。と思ったが、よく考えたらこれが彼女のいつもどおりだったなと思った。

私がそうだね、と適当に返すと、

「欲しくない？ 不老不死。特にわたしは不死がいいな」

また突拍子もないことを言った。

漫画の読みすぎだよ、と言おうとした時、

「じゃあ、あげようか？」

私たちとは違う声が聞こえた。教室には私たち以外居なかった筈なのに。振り返り見ると、

「実はね、一つ持ってるんだ。『不老不死』」

妙な格好をした女の子がいた。制服じゃないし、多分年下ぽかったからそう表記する。

「それ本当！？」

聞き返された言葉に、

「うん。マジモンだよ」

女の子はあっさりと応えた。

「でもさ、さっき言ったように一つしかないの」
人差し指をピンと立てて女の子は言葉を続ける。

「だからさ、半分に分けてあげるね、『不老不死』を、『不老』と『不死』に、どっちを選ぶかはアナタ達にまかせるから、決まったら言うて」

そして女の子は近くにあった机に座ろうと、後ろ向きに跳んだ時、

「わたし『不死』！」

「はう！？」

あっさりとした決めた言葉に着地を失敗してお尻を打っていた。

「いたた…えつと、アナタは『不死』でいいんだね？」

「うん！」

「じゃあ、アナタは『不老』ね」

私を指差して女の子が告げる。

いや、私は別に…と返すと、

「ダメだよ 片方だけ余らせるなんて」

パチン。そんな音と共に女の子は急に発光した。私は思わず目をつぶってしまったので、

「それじゃ、『不老』と『不死』を半分ずつね」

その声を聞いて目を開けた頃には。女の子の姿は見えなくなっていた。

いったいなんだったんだろう？ まさか本当に『不老』になったわけがないよね？

そう私が言って彼女を見たとき、

「ねえ…見て？」

彼女の首にはカッターナイフが刺さっていた。

かなり深いのだろう、傷口から赤い液体が溢れ出ているそれははた目に見ても分かる。即死ものの傷だ。

しかし、当の彼女は、

「こんなにしたのに、わたし生きてるよ？ これどついう意味分かる？」

つまり彼女はこう言いたかったんだろう。

「わたし、『不死』になっただんだ！」

それからというものの、『不死』の彼女はやることなすこと全てが死

と隣合わせになっていた。
信号機が赤になってから横断歩道を走り、何回も車に轢かれていた。カナヅチなのに、25Mプールで息継ぎ無しで泳ぎまくっていた。テレビを見て懂れて、指の間を包丁で行き来して刺さっていた。ショートカットだと言って、四階から何回も飛び降りていた。やめとけといわれたのに、ドライアイスを顔にかけていた。ここに書くのさえ嫌になる、そんなことも多々していた。見るのも嫌になるような傷や怪我が増えていた。そんな彼女は……
今、

実験動物となっていた。

彼女の『不死』を証明する行動の数々が、多くの研究者の目に留まり、ある研究所に連れて行かれた。

今、『不死』の彼女が何をしているのかは知らない。『不死』と『不老』を分け合ってから、もう80年も経っているのだから。

少なくとも分かるのは、『不死』の彼女は今、97歳の老人だということだけだ。

死を迎えぬまま、いつまでも生き続ける。死ぬ事の無い、世にも珍しい実験動物として……

そんな私もまた、実年齢97の、見た目17歳の老人だ。

今になってなぜコレを書いているのかと言えば、この出来事に関わった。出来事の発端になった女の子に出会ったからだ。

80年前と変わらぬ私を見た、そちらも見た目に変化の無い女の子は、

「やっぱりどつちかだけじゃなくて、どつちも、が良かったよね」
それだけ言っつて、消えてしまった。

あの子が何者なのか、今となって考えるのは遅い、見た目は高校生

の私の体は97歳のそれが招いた病に蝕まれている。正直、いつ逝くか分からない中、これを書いている。

ただ この言葉を

言いたくて

もしも

あなたなら

『不老』

と

『不死』

どちらが

いいで

(後書き)

迷鳥の迷い路話、ちよくちよく書いていく予定です。
楽しめるか定かではありませんが、感想いただけたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3865p/>

『不老』か『不死』

2010年12月14日22時26分発行